

臨床工学技士による医療の質の向上を考えた取り組み

○鈴木沙織

岩井整形外科内科病院

【はじめに】当院は60床の病院で、脊椎の内視鏡手術に特化し、全国の1割の手術を行なっている。6年前から臨床工学技士（ME）が手術中の運動機能モニタリング（MEP）による運動路の評価を導入したことで、医師が患者により安全な手術を行なえている。昨年7月、品川に新病院をオープンし、当院と合わせ5名のMEが手術室に配属され、術後のQOLの向上を目指すチーム医療の一員として役割を担っている。導入から現在に至るまでの経緯と今後の課題について報告をする。またME本来の業務である医療機器の管理についても併せて報告する。

【方法】①MEP導入の準備（医師・メーカーとの協議）②MEPマニュアルの作成③MEPの実施方法④MEP実施者の育成⑤医療機器管理マニュアルの作成

【考察】MEP導入により、手術中の運動路の評価が行なえるようになり、脊髄を直接圧迫または損傷する危険がある手術において、術後の運動麻痺を予防することが可能になった。また、神経圧迫部位を手術により取り除くことでMEP値が改善することも証明できた。これにより患者も医師も安心して手術を受けられるようになった。また医療機器管理についてもマニュアルを作成することで実施すべきことが明確になった。看護師と機器点検を協力して行なうことで、定期的に機器に触れ経験不足によるインシデントも減らすことにつながった。

【まとめ】手術中MEPを実施している施設は増えてきているが、実際にどのようなことを行なっているかを知っている割合は少ない。今後の課題としてME主催の勉強会を積極的に開催し、MEPの知識を広めていきたい。